

漢法苞徳塾資料	No. 541
区分	手技
タイトル	塾の刺絡刺法について
著者	八木素萌
作成日	2002.03.24 刺絡学会シンポジウム用レジメ

I. 鍼灸治療術の中での刺絡刺法の位置と意味

刺絡は鍼灸術中の重要な一部分で、対象とする疾患も広汎である。刺絡は、例えば発作直後の卒中への大きな治療効果や、刺絡施術を転機に慢性疾患が急転して快方へ向かったような驚くべき効果を時として発揮する。

漢法医学の歴史上の文献に刺絡治療の効果的な症例が広汎に散見されるが、これらを全面的体系的に整理整頓した上で、そこに見られる理論問題をも全面的に検討研究しているような専門書は、甚だ残念ながらまだ目にできないでいる。我が国の鍼灸では大部分が毫鍼による施術であるが、三稜鍼を運用する治療がもっと大幅に増加するならば、我が国の鍼灸術における治療の水準と範囲はかなり広げることになるものと思われる。

II. 『靈枢』による〔注意事項〕の記述などと塾の基本的態度

「刺血絡」の場合の注意事項を論じている専門的な篇として『靈枢』血絡論第 39 があるが、これは注目に値するし是非とも基礎的な事項として学習し研究しておくべき篇であると思う。病体を注意深く観察しながら臨床を行っている者には、キャリアが浅い臨床家にも刺絡に伴う経絡的な変化は劇的に大きいのが良く分かるので、一部にはその変化に魅了されて一時刺絡施術の虜になって刺絡に凝る場合を見かけるが、基礎的な適応症の判断力と技術と『内経』中にしばしば記述されている注意事項とを研究した上で、三稜鍼の運用を行うようにすべきものと考える。

そのため当塾では、刺絡がどうしても必要と判断した場合以外には刺絡は行わない。適応症以外には極力刺絡を避ける方が無難であるという基本を守るように注意している。刺絡が必要かも知れないと思っても、当該部位への経気の流れを改善するための施術を数回程度行くと、当初の判断の誤りに気付かされる場合が少なくないことや、体表の細静脈叢は刺絡に適応した細絡と見なされることは少なくないが、刺絡して電動ポンプで強く吸引したのに細静脈叢が消失しているのはせいぜい一日か一日半ぐらいで、元の状態に戻ってしまい病状の変化も現れないという場合も見受けられ、他の方法に変えた治療で問題の細静脈叢が消失してしまい、旧に戻らなかったし病候も明瞭に改善された例もあったが、これはもともと刺絡治療の適応症ではなかった訳である。その故に「刺絡は最後の手段」と捉えるべきだ、というのが当塾の基本的な態度である。しかし、応急の措置の場合や劇症に対応する力量を常々養っておく必要があるのが臨床家の義務であり宿命であるから、刺絡の理論と技術は絶えず磨いておくように！というのも当塾の態度である。

III. 塾の施術用具（三稜鍼など）と施術方式

◆刺絡施術用の鍼具

- ・三稜鍼〈塾特製〉
- ・直刺型三稜鍼〈特注型と普通のもの二種〉
- ・点瀉鍼〈神戸製〉
- ・7番2寸金鍼
- ・0番短鍼〈7分～1寸鍼体、長柄鍼〉
- ・吸い玉〈大中小〉三種

◆施術方式

イ. 0番短鍼〈7分～1寸鍼体、長柄鍼〉

主に顔面のシミになって固定した瘀血斑に「シミと健常部」の境界部分まで平行刺して小時間置鍼の後抜去し、消毒綿にて清拭する。これを反復施術する。

ロ. 7番2寸金鍼と三稜鍼〈直刺型〉・点瀉鍼〈神戸製〉

深部にあつて見えにくい細絡を捉えて絡刺する場合に用いる。

ハ. 三稜鍼〈直刺型〉・点瀉鍼〈神戸製〉

施術部位が狭くて奥まっていたり深く屈曲している部位に用いる。こういう場所は吸い玉が使いにくいので手指で瘀血は絞られる。血液の色が綺麗に赤くなった時点をもって度とする。

ニ. 三稜鍼〈塾特製〉と三稜鍼〈直刺型〉

中国製型と、特製の鍛えた鋼で手造りした特製直刺型三稜鍼の二種類がある。これらの特製のものは塾の注文に従って作成してもらったものである。特製特注型の鍼は切皮部位の刃先の形状が和痛性を持つように工夫されたものであるのが自慢である。これら特製特注型は最も繁用されている。

ホ. 施術に際して苦痛を和らげる為に施術部位での押手に注意を払うことと切皮の方向性に注意している。

ヘ. 「首から上」（頭部・顔面部）に施術しなければならない場合は、前述の「シミ取り」の場合を除いて出血量が多くなるので、事前に良く説明して患者の同意納得を得てからのみ施術する。

IV. 施術目標部位の一般的状況その他

経絡・絡脈・孫絡が一般的に言われている対象部位とされているが、これは主に『靈枢』が記述したものである。これらの部位に病の場合にのみ限って現れる表在微細静脈（種々の形状をしている：小点上のアカアザ類似のものから叢状になっている毛細静脈・体表小静脈・太いものから細いものまで・糸状や小長虫のようなもの・等々）で色調は紫がかった黒っぽいものが多いのが施術目標である。この他、井穴・十宣穴・八邪穴・八風穴・四縫穴など所謂細絡を見なくとも施術する場合がある。

〔提案〕

この論の始めの方に記述したように、刺絡学としての専門書がまだないのであるから、歴史的達成を総まとめにした体系的総合的な専門研究書を作る方向と方法を探っていくべきであろうと思考する。